

## 伝建地区内の固定資産税等の軽減について

伝建地区内の伝統的建造物として特定された家屋は、固定資産税と都市計画税について地方税法の規定により平成29年度分から非課税となります。また、伝建地区内の土地についても、平成28年9月市会において改正された「名古屋市市税减免条例」で特例措置が設けられ、固定資産税等が平成29年度分から軽減されます。

### 固定資産税・都市計画税の軽減の内容

#### 【家屋】

- 伝統的建造物 非課税  
(伝統的建造物以外の建造物 軽減措置なし)

#### 【土地】

- 伝統的建造物（家屋）の敷地  
税額の2分の1を軽減
- それ以外の土地 税額の5分の1を軽減

- 固定資産税等の非課税又は軽減に関して、11月から12月にかけて一部の家屋を対象に家屋調査が行われる予定ですので、ご理解とご協力を願いいたします。（家屋調査の対象となった家屋の所有者の方には金山市税事務所固定資産税課から11月頃調査の依頼があります。）
- 土地に対する軽減に関しては、申請の必要はありませんが、**伝統的建造物（家屋）に対する非課税に関しては、金山市税事務所固定資産税課から必要書類の提出**のご案内があります。
- 固定資産税等の軽減税額については、来年4月に送付される納税通知書・課税明細書でご確認いただけます。

#### 伝統的建造物とは？

概ね昭和30年頃までに造られた建築物その他工作物のうち、伝統的な特性を維持していると認められるもので、所有者等にその保存について同意をいただいたものを「伝統的建造物」として特定しています。



伝建地区内の固定資産税等に関することは  
**名古屋市金山市税事務所固定資産税課**までお問合せ下さい。

TEL : 052-324-9807

## 有松の町並みを紹介する リーフレットを作成しました！

有松の町並みの魅力を伝えるため、リーフレット「有松の町並み」を作成しました。「有松の町並み」は有松・鳴海絞会館や有松山車会館などで配布し、また、市ウェブサイトでも掲載しておりますので、ご活用ください。

HP [名古屋市有松町並み保存地区](#)



伝建地区・町並み保存地区に関するご意見やご質問は、歴史まちづくり推進室にお寄せください

名古屋市 観光文化交流局 歴史まちづくり推進室 担当：中山、栗並、平岡、水谷

TEL : 052-972-2782 FAX : 052-972-4128

E-mail : a2782@kankobunkakoryu.city.nagoya.lg.jp

有松 ありつ

# 歴史まちづくり ニュース

第10号



発行：名古屋市観光文化交流局歴史まちづくり推進室 Tel.052-972-2782 発行日：平成28年10月

## 重伝建選定記念シンポジウムを開催しました！

10月2日(日)、『重伝建選定記念シンポジウム～有松の町並みを活かして～』を有松小学校で開催しました。有松小学校5、6年生の児童による合唱『「有松」みんなの故郷』で始まり、名古屋市立大学 溝口正人教授より有松の町並みの特徴についてお話をいただきました。



続いて、法政大学 隊内秀信教授により歴史的町並みを活かしたまちづくりの傾向や有松のまちづくりへの期待などをお話をいただきました。

パネルディスカッションでは、溝口教授をコーディネーターとし、パネリストの陣内教授、一般社団法人ノオト代表理事 金野幸雄氏、文化庁文化財調査官 下間久美子氏、有松まちづくりの会 竹田嘉兵衛氏により、有松のまちの魅力や今後どのような取り組みを行っていくよいのか議論が行われました。

シンポジウムの概要については中面をご覧ください

## 伝建地区内の固定資産税等の軽減について

名古屋市会9月定例会において市税减免条例の一部改正が可決され、伝建地区内の固定資産税と都市計画税の軽減について定めされました。

固定資産税・都市計画税の軽減についての詳細については裏面をご覧ください

## 歴史まちづくりパネル展～有松重伝建選定記念～を開催します

重要伝統的建造物群保存地区(重伝建)に選定された有松の町並みと市内の歴史的建造物の魅力を紹介する「歴史まちづくりパネル展～有松重伝建選定記念～」を下記の通り開催しますので、是非お越しください。



日時 10月25日(火)～11月6日(日)午前10時～午後6時(10月31日(月)は休館)  
※金曜日は午前10時～午後8時、土曜日・日曜日・祝日は午前10時～午後5時

場所 名古屋都市センター11階 まちづくり広場(金山駅南口すぐ)

# 重伝建選定記念シンポジウム～有松の町並みを活かして～ あらまし

10月2日（日）、有松地区の重伝建選定を記念して、  
有松の町並みの魅力と今後の展望を語るシンポジウムを開催しました。

## 選定経過報告「建物調査からみた有松の町並みの価値」

報告者：名古屋市立大学教授 溝口正人氏

専門は日本建築史。足助や有松等の町並み調査保存に携わる。

- 平成24～25年度にかけて、名古屋市立大学、名古屋工業大学、愛知工業大学の調査チームが東海道沿いの約40軒の建物調査を行い、主屋の建造年代等が判明しました。
- 東海道沿いに幕末～昭和初期に建てられた絞りに関わる諸職の町家が連たんして町並みが形成されています。
- 建物を使い続けるため、江戸期の意匠を踏襲しつつも、少しずつ建物は変化してきました。江戸期は東海道を往来する旅人向けに有松絞りを店頭販売するため、主屋の東海道に面する部分を広く開放しましたが、明治期以降になると、卸売販売へと業態転換がなされ、主屋の東海道に面する部分に格子がはめられるようになりました。
- 有松は多くの発見があるまちです。この町並みを守るため、今後とも、町並みの維持・継承に向けて取り組んでいっていただきたい。



## 基調講演「歴史的町並みを活かしたまちづくりの潮流～有松への期待～」

講演者：法政大学教授 陣内秀信氏

専門はイタリア建築史・都市史。昭和53年（1978）有松・足助地区で開催された第1回全国町並みゼミに学生時代に参加。

- 住宅として使用している歴史的建造物でも、かつては商店だった建物も多くあります。そういう建物を保存・活用していくには単なる住宅として使用するだけでなく、そこに新たな機能・要素・活動を入れ、使用用途を複合化することにより、新たな営みを創造していくことが大切になります。
- ものづくりの精神にクラフト、アートの要素を付加し、それを踏まえた文化観光、体験型の観光の仕組み、リピーターを引き寄せる仕組みが重要になります。また、新しい宿泊の形式、食（地産地消）によるおもてなしなどがうまく噛み合うと、I・Uターンで人が集まっています。
- 例えば、イタリアのトレヴィーゾというまちでは、歴史的建造物がファッショントランクショップや現代アートの展示空間として活用されています。観光地化はしていないですが、生活空間として非常に豊かであり、イタリアで一番住んでみたいまちとなっています。
- 日本では、石見銀山（大森銀山伝建地区）を拠点に展開しているアパレルブランドの例があります。歴史的建造物の良い部分を残しつつ、現代のライフスタイルにあわせて改装し、ショップ・宿泊施設などとして活用しています。歴史的建造物だからこそ生み出せる趣深い空間を作り出しています。
- 今後のまちづくりは、まちの歴史や魅力を学び、掘り起こすことがより重要となるとともに、若者の感性や構想、実行力が必要となります。



## パネルディスカッション 「歴史的町並みを活かす新たな展開」

### パネリスト

法政大学教授 陣内秀信氏  
一般社団法人ノオト代表理事 金野幸雄氏  
文化庁文化財調査官 下間久美子氏  
有松まちづくりの会 竹田嘉兵衛氏

### コーディネーター

名古屋市立大学教授 溝口正人氏



## 有松の町並みについて

- 戦後の日本は古いものは壊し、新しいものをつくりついこうという風潮がありましたが、元来、日本文化はモネをはじめとする外国の芸術家に影響を与えるなど、世界的には高い評価を受けてきました。有松の町並みは素晴らしい日本文化が形となって表れていると思います。【竹田氏】
- 有松の重伝建の種別は「染織町」です。せんしょくまち重伝建に選定されたまちの中で、産業（有松絞り）の起源とまちの起源が有松ほど密接な地区はないと思われます。【下間氏】

## 他都市での歴史的建造物の活用事例について

- 竹田城下では市が町並みの拠点となる建物を整備し、収益施設の運営・管理を我々民間に任せています。我々が手がけている町家ホテルにはスタッフが常駐し、周辺の建物のリノベーションも手掛けられています。歴史的建造物をリノベーションすると、クリエイティブな人が集まってきて、新しい産業が創造される、という傾向がみられます。【金野氏】

兵庫県丹波・但馬地域で古民家再生事業などに取り組む。

## 魅力を活かした今後のまちづくりのあり方について

- 文化財を保護することにより新たな良さに気付き、そこに文化交流の考え方方が加わると、創造力が生まれられます。これが古いものを新しいものにつなげていく要素となっていると思います。【下間氏】
- 絞りを通した国際的な交流をこれまで行っており、旧銭湯をリノベーションして外国人が体験・滞在できる場にしようとする動きが出てきています。【竹田氏】
- 有松のまちの歴史性をふまえると、クラフトのクリエーターを呼び、新しいクラフトをつくっていく。そこに若者を呼び込むことが有松の今後の方向性の一つだと思います。【金野氏】
- 有松は世界的に見ても魅力を持っているまちだと思います。町家を活用して人が集まる場所ができる、そこでまちづくりの議論ができると良いと思います。【溝口氏】

当時は住民の方はじめ、300名以上の方が参加され、熱心に聞き入ってみました。

